

**国際シンポジウム**  
**東アジアの持続可能な未来に向けた**  
**エネルギー、資源、土地利用の大転換と制度改革**  
**—電源・産業・交通部門—**

## 1. 開催の意義

東アジアでは、気候変動問題とともに、大量消費と廃棄による資源枯渇の問題、水資源の不足と利用の偏在性の問題が顕在化しており、農業の土地生産性低下の問題も浮上しています。これらの問題は、資源ナショナリズムを生むなど東アジアの持続可能な未来を大きく脅かしており、各国の国境を超えた地域レベルの取組みが喫緊の課題となっています。これらの問題は、相互密接な関連を持っており、東アジアレベルでのエネルギー、資源、環境など総合的な視点からの問題把握と解決への処方箋が欠かせない状況であります。

本シンポジウムは、東アジア環境政策研究会の科学研究プロジェクト(基盤研究(A)「東アジアの持続可能な未来に向けたエネルギー、資源、土地利用の大転換と制度改革」研究代表者:李秀澈名城大学教授)研究成果の中間報告として開催されます。今回のシンポジウムでは、東アジアにおける持続可能な未来に向けたエネルギー・産業・交通・建築部門の脱炭素への方向性を明らかにしたいと考えています。本シンポジウムは、研究者の方以外に、環境問題に関心のある学生、地域住民の方を対象にしています。東アジアの環境問題を身近な問題としてとらえていただき、議論に参加していただければ幸いです。

## 2. 開催日時、開催場所

日時:2017年12月23日(土)13:00~18:00

場所:名古屋大学国際開発研究科(8階多目的オーデトリウム)

参加登録:お名前・ご所属を記入の上、以下の連絡先にメールでお申込みください。

連絡先:李秀澈(名城大学) [slee@meijo-u.ac.jp](mailto:slee@meijo-u.ac.jp) および

藤川清史(名古屋大学) [fujikawa@gsid.nagoya-u.ac.jp](mailto:fujikawa@gsid.nagoya-u.ac.jp)

主催:東アジア環境政策研究会(REEPS)

共催:名城大学経済学部、

名古屋大学国際開発研究科(GSID)、

名古屋大学アジア共創教育研究機構(ASSIA)

国際開発学会東海支部(JASID-Tokai)

**reeps**

**科研費**  
KAKENHI



### 3. プログラム

司会 藤川清史(名古屋大学)

#### 開会の言葉

13:00～13:20 シンポジウムの趣旨説明 李秀澈(名城大学)

#### 第 1 部 東アジアの持続可能な発展に向けた電力部門の低炭素ビジョン

13:20～13:45 原発および石炭火力の規制と 2050 年の持続可能な電源ミックスビジョン  
松本健一(長崎大学)  
東愛子(尚絅学院大学)

13:45～14:10 東アジアの持続可能な電源ミックスビジョンの経済効果  
李秀澈(名城大学)  
Hector Pollitt(Cambridge Econometrics)

14:10～14:35 炭素税および固定価格買取制度と 2050 年の電源ミックスビジョン  
李態妍(龍谷大学)  
Unnada Chewpreecha(Cambridge Econometrics)

14:35～14:50 休憩

#### 第 2 部 東アジアの持続可能な発展に向けた産業・交通・ビル部門の脱炭素化

14:50～15:15 東アジアの持続可能な 2050 年における産業部門の脱炭素化  
昔宣希(地球環境戦略研究機関, IGES)  
Hector Pollitt(Cambridge Econometrics)

15:15～15:40 東アジアの持続可能な 2050 年における交通部門の脱炭素化  
Aileen Lam(Macao University)  
李秀澈(名城大学)

15:40～16:05 東アジアの持続可能な 2050 年におけるビル部門の脱炭素化  
金星姫(エネルギー経済研究所)  
Unnada Chewpreecha(Cambridge Econometrics)

16:15～16:30 休憩

#### 第 3 部 東アジア各国の制度改革

16:30～18:00 パネルディスカッション  
東アジアの脱炭素社会に向けての各国の制度改革

パネリスト:

(中国)周瑋生(立命館大学), (日本)高村ゆかり(名古屋大学),  
(韓国)羅星仁(広島修道大学), (台湾)陳禮俊(山口大学),  
(総括)李秀澈(名城大学)

パネリストの報告の後に, 参加者との質疑応答

#### 閉会の挨拶

18:00 李秀澈(名城大学)